

八王子支部ニュース

八王子支部メールアドレス hachioji-tu@nifty.com



2020/5/8
NO. 1
都教組八王子支部
042(623)1141

今できることを大切に。

都教組八王子支部執行委員長 佐々木清明

三月の卒業式はいかがでしたか? 「シンプルでよかった」「子どもたちがあれだけの制約の中で、よく頑張った」「一回きりの本番だと思つと、ぎこちなくても証書授与などきちんとやるものだね。去年まで、時には声を荒げてやり直しまでさせていたのは何だったんだろう。」「別れの言葉、練り上げる時間がなくても、代表の一言一言を、卒業生みんなが、うなずきながら聞いていた。自分のこととして受け止めていたと思う。」「私たち教職員も、最善を尽くした」多くの職場からそういう声を聴きます。普段の積み重ねの成果、底力が発揮された、と。しかし、二度とこんなことを繰り返したくはありません。

二月二七日夕方、私は市教委との交渉準備で電話の最中でした。日程調整のため先方が一度受話器から離れ、戻ってくると「予定が立たなくなりました。いっぺん切りましょう。ニュースを聞いてください」と慌てた声。一斉休校要請が報道された瞬間でした。市教委にとっても、まさに寝耳に水。年度末の大切な教育活動が、突然打ち切られたのです。

感染拡大防止に休校は必要でした。しかし準備期間のない一方的なやり方は間違っています。あれ以来、新年度の今でも、私たちは子どもたちとじっくり話し合う機会がありません。子どもたちは、学び・遊び・人とのかわりなど成長の場が極度に縮小され、大きな不安の中にいて、でも、大人はどうするのか、世の中はどうなるのか、じつと見つめ、いろいろなことを感じていることでしょう。一緒に考えていきたいことはたくさんあります。自分に何ができるか考え、実行する。困ることは困る、と、当事者として発言する。立場の違ういろいろな人の声を受け止める。「自粛警察」と言われるような弱者同士のあら捜しに流されないで、どう人とながつながっていくのか。世界とどう向き合い、他国から何を学ぶのか。どうやったら、責任ある政治を作っていくのか。

今、私たちにできること。提出物に、今まで以上に心を込めて丁寧に赤ペンを入れる。いろいろな手段で、少しでも子どもにも働きかける。そして、しっかり関わられるようになったときに、何を伝え、どう活動するのか、今、準備しておく。学校が再開しても以前の子どもたちとは違うでしょう。収入が激減した家庭も多い。家族や親せきのトラブルやアクシデントもあったかもしれない。大きなストレスを抱えて過ごしてきた。引き続き不自由な「新しい生活スタイル」がぶつかったり肩を組んだり、転げまわって遊んだりしたい時期に、距離を置かなければならない。そんな子どもたちの内面に寄り添う手立てを模索する。もちろん、自分自身と家族の命と健康、生活を守りつつ。

職場の底力に自信を持ち、創意工夫し力を合わせていきましょう。言うべきこと、要求すべきことはあきらめず、不当なことには目をつぶらず、発言し続けましょう。これからも今まで以上に、ともに頑張りましょう。

コロナ感染予防のため今年度は文書による開催となりました。

都教組定期大会

5/16(土)

代議員(5名)

南大沢中: 佐々木清明

長沼小: 三浦真岐子

長房小: 陶山葉子

宮上小: 金丸たか子

高尾山学園 山内幹子



えがお署名のとりくみを

- 「教育無償化の推進」
- 「教職員定数の改善」
- 「教育予算の増額」

組合員だけでなく職場のなかま、家族、知人などあらゆる方々に声をかけて署名を集めましょう。